

旧大連航路上屋の保存活用計画が動き出したのが1998年、建築学会九州支部の調査により大熊喜邦の作と判明、保存活用が提案された。2003年よりアプルが検討作業を依頼され、①土地・建物は国施設とし、港湾緑地内の港湾関連施設、②建築の歴史的価値を尊重、可能な限り意匠と空間構成の復元、③市民開放を積極的に進め、賑わい・憩いに寄与する建物に転換を提案し、展望休憩所やイベント施設、研修施設、としての活用が承認された。

2007年より調査設計が始まり、建物構造調査及び改修設計を担当した。しかし事業費面で設計が中断、その後2010年度より東畑建築事務所によって大幅な事業費圧縮方策も含めた実施設計完了、2013年に改修工事が竣工した。



改修前の大連航路上屋



上屋改修の外観イメージ（基本設計時提案）



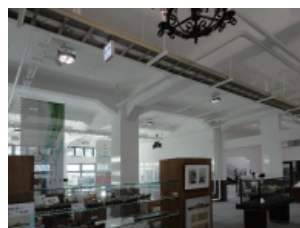
上屋改修の内観イメージ（基本設計時提案）



改修された大連航路上屋の東側正面玄関



改修前の北（海）側外観状況と改修方針検討



改修された大連航路上屋の1階展示ホール



改修された大連航路上屋の2階イベントホール



改修された2階屋外通路

経緯 西海岸地区港湾関連用地等活用検討調査'03.11～'04.3 / 門司港地区まちづくり総合支援基本計画'04.1～'04.3 / 旧大連航路上屋事業化調査'04.12～'05.3 / (仮称) 西海岸1号上屋(旧大連航路上屋)改修工事基本設計'06.8～'08.3
諸元 発注:北九州市 構造:主体構造-RC造 階数:平屋一部2階建て、建築面積:3983.26㎡、延床面積:4941.48㎡、建築年:1929(昭和4)年、改修年:2013(平成25年)、原設計:大蔵省営繕管財局(大熊喜邦)、原施工:大倉土木㈱、用途:事務所・倉庫 改修用途:集会場 設計協力:構造:TIS&Partners 設備:新日本設備計画、改修実施設計:東畑建築事務所 担当:中野、萩原、清水、松尾、加藤、柴田